

平成30年度ADフォーラム

(一社)日本レストルーム工業会 UD部会 活動報告

2018.10.23

(一社)日本レストルーム工業会
ユニバーサルデザイン部会

部会長 長谷 寛(TOTO株)

1. 日本レストルーム工業会組織概要①

(一社)日本レストルーム工業会は、2015(平成27)年4月より、
(一社)日本衛生設備機器工業会と(一社)温水洗浄便座工業会が合併し、トイレ・洗面室
等、水まわりにかかわる設備機器を対象とした事業を実施する組織に再編し新たにスタートしました。

■設立経緯

1948年(昭23) 11月 「日本衛生陶器工業協会」として設立

1964年(昭39) 7月 「日本衛生陶器工業組合」に改組
1985年(昭60) 6月 「日本衛生設備機器工業会」に改組
2012年(平24) 4月 「一般社団法人 日本衛生設備機器工業会」

2015年(平27) 4月 「一般社団法人 日本レストルーム工業会」発足

■目的

衛生設備器機(衛生器具、温水洗浄便座、暖房便座、衛生器具付属金具等)産業の
振興に 関 する共通的な施策を推進することにより、その健全な**発展を図る**とともに、**国民の住生活の**
向上と、わが国 経済の伸長に寄与することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行う。

■事業

- (1) 衛生設備機器の生産、流通、消費及び貿易の振興に関する対策の確立及びその推進
- (2) 衛生設備機器の普及及び各種啓発に関する諸対策の推進
- (3) 衛生設備機器に関する各種規格、基準等の策定及び関連事業の推進
- (4) 衛生設備機器の維持管理に関する調査・研究及び関連事業の推進
- (5) 衛生設備機器の環境に関する調査・研究及び関連事業の推進
- (6) 衛生設備機器の製品安全に関する調査・研究及び関連事業の推進
- (7) 衛生設備機器に関する関係官庁、関係機関等に対する意見具申及び答申
- (8) 前各号に掲げるもののほか、当法人の目的を達成するために必要な事業

1. 日本レストルーム工業会組織概要②

■会員(8社)

- ・アイシン精機株式会社
- ・アサヒ衛陶株式会社
- ・SANEI株式会社
- ・ジャニス工業株式会社
- ・東芝ホームテクノ株式会社
- ・TOTO株式会社
- ・パナソニック株式会社
- ・株式会社LIXIL

■レストルーム工業会会長：喜多村 円 (TOTO(株) 社長)

■理念・ビジョン

業界が持続的に成長し高品質で安全安心な製品を提供し続けることによってお客様とのさらなる良好な関係を築いてまいります。

理念

レストルーム業界の持続的な発展を通じて、世界中の人たちの生活文化向上に貢献します。

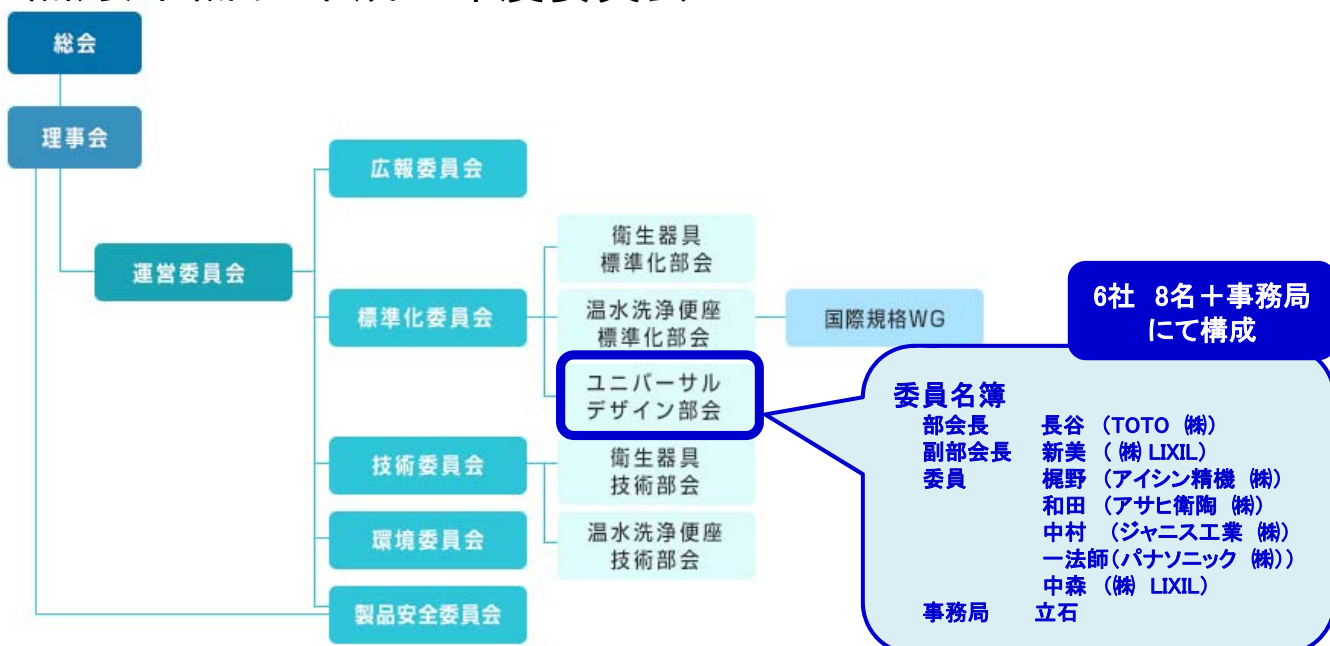
ビジョン

世界中の人たちに、安全で使いやすく環境にやさしい快適なレストルーム空間を提供します。そのために、

1. <安全・安心> 製品の安全性をさらに向上させ、適切な使用方法を広めます。
2. <環境貢献> 地球温暖化をはじめとする環境問題解決のため、地球にやさしいモノづくりを目指します。
3. <国際貢献> 製品の国際標準化を進め、海外でのさらなる普及を図ります。

1. 日本レストルーム工業会組織概要③

■組織概要・組織図 平成30年度委員会



標準化委員会	衛生器具標準化部会	衛生器具 (大便器等) に関わる国内および国際標準化を推進する。
	温水洗浄便座標準化部会	温水洗浄便座等に関わる国内および国際標準化を推進する。
	ユニバーサルデザイン部会	ユニバーサルデザインに関する国内外の標準化を推進すると共に、諸課題解決を推進する。

2. 2018年度の活動

超高齢社会への対応等、UD(ユニバーサルデザイン)に係る事業の推進

(1)UDに係る標準化への取組み

①ISO/TC159国内検討委員会への委員参加

②ステッキホルダーJIS原案作成委員会への委員参加

③車いすトイレでの適切な大便器高さの明確化
(高座面便器および一般便器の使用対象者・用途の整理)

(2)住宅・パブリックのトイレ空間のUD化に関する提案

①住宅・パブリックトイレに関するUD視点での新しい価値につき、ホームページを活用した情報発信。

2. 2018年度の活動

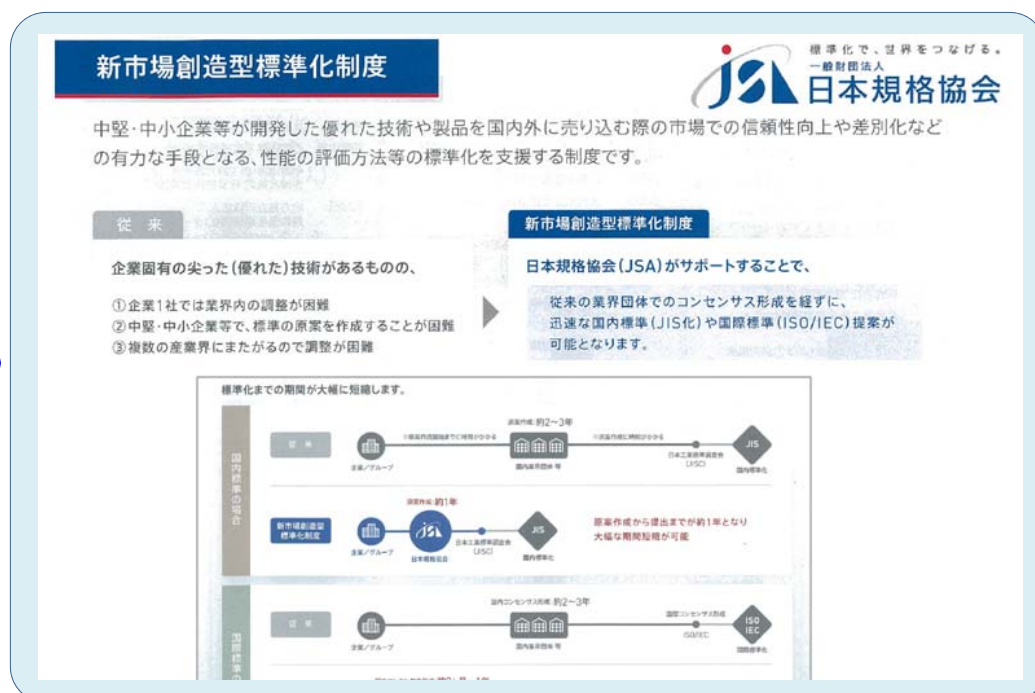
超高齢社会への対応等、UD(ユニバーサルデザイン)に係る事業の推進

(1)UDに係る標準化への取組み

②ステッキホルダーJIS原案作成委員会への委員参加

日本規格協会
が事務局

活動は
17年、18年
の2年間

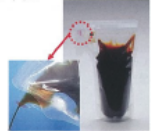


新市場創造型標準化制度を活用した具体的案件の概要(1)

- 平成27年5月以降、中堅・中小企業から提案のあった国内標準作成について、「新市場創造型標準化制度」を活用して標準化を行うことを日本工業標準調査会の議決を経て具体的案件を決定します。
- 一般財団法人日本規格協会(JSA)が提案企業を含めた原案作成委員会を構成し、標準化の原案を作成。今後、中堅・中小企業等の優れた技術や製品の標準化を進め、新たな市場の創出につながる事が期待されます。

液体用高機能容器に関する標準化 株式会社 悠心 (新潟県、従業員12人)

開封後も液体内容物が高い鮮度を保つことが可能な逆止弁を用いた液体用高機能容器の評価方法を標準化。(JIS化)



平成28年10月20日付 JIS Z 1717 として公示

自動車用緊急脱出ツールに関する標準化 株式会社 ワイビーシステム (埼玉県、従業員25人)

交通事故などで自動車に閉じ込められた時に使用されるガラス破砕・シートベルト切断ツールに関する破砕・切断性能を標準化。(JIS化)



平成28年9月20日付 JIS D 5716として公示

蛍光式酸素濃度計に関する標準化 株式会社 オートマッチシステムリサーチ (東京都、従業員9人)

耐久性、測定性能に優れた蛍光式の酸素濃度計の評価方法を標準化。(JIS化)



平成28年12月20日付 JIS B 7921として公示

高機能性塗料による表面処理方法の標準化 株式会社 竹中製作所 (大阪府、従業員155人)

耐久性、耐食性に優れた高機能性塗料による金属の表面性能を標準化。(JIS化)



平成28年12月20日付 JIS Z 8921として公示

プラスチック再生事業の生産プロセスに関する指針JISの開発 株式会社 レノバ (東京都、従業員196人)

再生プラスチック生産プロセスの信頼性等向上に資する品質マネジメントシステム(JIS Q 9001)の分野別指針を標準化。(JIS化)

平成28年10月20日付 JIS Q 9091として公示

新市場創造型標準化制度を活用した具体的案件の概要(5)

<平成29年1月に決定した案件>

アクセシブルデザイン・ステッキホルダーに関する標準化

有限会社 ウォーターベル

(愛知県、従業員7人)

高齢化社会の進展に伴って、杖を利用しなければ日常生活に支障をきたす高齢者・障害者が増加している。この杖を容易に差し込むことができ、かつ、確実に固定できるようにした高齢者・障害者に配慮したステッキホルダーの性能及び試験方法を標準化。(JIS化)



<平成29年3月に決定した案件>

プラスチックフィルム製キャリー袋に関する標準化

株式会社 ミヤゲン

(福井県、従業員40人)

一例として、コンビニエンスストアで販売されているコーシーなどを、ワンタッチで保持・収納し、運搬時をこぼさずにデイクアウトできるなど、容器等を簡単に納めるプラスチックフィルム製キャリー袋の性能特性を標準化。(JIS化)



(有)ウォーターベル社
製品の技術を支援することが目的

<平成29年7月に決定した案件>

換気カプセル形発汗計に関する標準化

株式会社 西澤電機計器製作所

(長野県、従業員60人)

【標準化活用支援パートナー機関：長野県工業技術総合センター】
省エネ性と快適性とを両立できるように製品開発などのために、人の発汗に着目してそのデータに基づいた設計・評価が可能となるよう、人の発汗量を定量的に測定できる換気カプセル形発汗計の性能特性評価等を標準化。(JIS化)

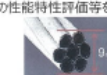


耐震補強用引張材－炭素繊維より線に関する標準化

小松精練 株式会社

(石川県、従業員773人)

防災・減災に資するよう住宅・建築物等の耐震補強を主な用途とする、高強度・軽量で、熱伝導率が低いことから結露を生じず木材との相性が良いといった機能をもつ、炭素繊維と樹脂とを複合したワイヤ状の炭素繊維より線の性能特性評価等を標準化。(JIS化)



馬乗り形電動車椅子に関する標準化

株式会社 テムザック

(福岡県、従業員15人)

介護の担い手不足なども踏まえ高齢化社会の課題となり、ベッドから車椅子に移乗する際、介護者に抱きかかえられ、回転して椅子に座るまでの抱きかかえ移乗が過度な負担ともなることから、この負担を軽減して移乗・移動が容易となる馬乗り形電動車椅子の性能特性評価等を標準化。(JIS化)



日本規格協会



日本規格協会

7

181023 ADフォーラム(レストルーム工業会 UD部会)

2. 2018年度の活動

超高齢社会への対応等、UD(ユニバーサルデザイン)に係る事業の推進

(1)UDに係る標準化への取組み

②ステッキホルダーJIS原案作成委員会への委員参加

日本工業規格(案)

JIS
S XXXX : 0000

高齢者・障害者配慮設計指針

ステッキホルダーの保持部

Guidelines for older persons and persons with disabilities – holding parts of stick holders

序文

JIS Z 8071 は、規格の開発時点において、人間の能力及び特性を明確化し、設計する際に配慮することを定めた指針である。

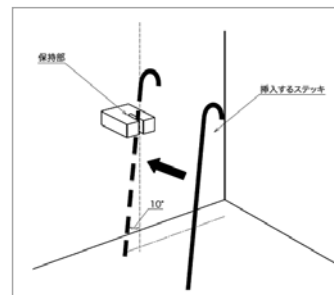
この規格は、JIS Z 8071 に基づき、筋力及び/又は動作機能において制限のある人が、ステッキを安定して装着でき、かつ、その後、容易に取外してつかむことができるよう配慮されたステッキホルダーの保持部の設計指針を提供する。

1 適用範囲

この規格は、高齢者及び障害のある人の歩行を支援するステッキを保持部が弾性変形することによってステッキを一時的に保持する機能をもつステッキホルダー(以下、ステッキホルダーという)であって、ステッキホルダーの保持部の留意すべき事項について規定する。ただし、次のステッキホルダーの保持部には適用しない。

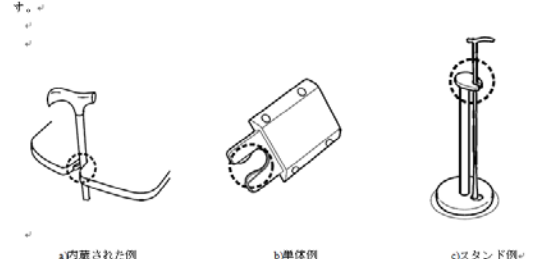
a) ステッキ自体に取り付けることで立て掛けを容易にすることを意図するステッキホルダー

b) 歩行時に、ステッキホルダーの保持部に固定する機能を付加して移動を支援するためのものを除く



*C1 ステッキホルダーの外観例

この規格の設計配慮事項に基づいて設計された保持部をもつステッキホルダーの外観例を、図 C.1 に示す。



点線で囲んだ部分は、ステッキホルダーの保持部である。

図 C.1 ステッキホルダーの外観例

超高齢社会への対応等、UD(ユニバーサルデザイン)に係る事業の推進

(1)UDに係る標準化への取組み

③車いすトイレでの適切な大便器高さの明確化

(高座面便器および一般便器の使用対象者・用途の整理)

高座面便器座面高さ : 455mm
一般便器座面高さ : 420mm

■17年3月「建築設計標準」改正にて機能分散が強化された結果「多機能トイレ」から「車いすトイレ」となり、使用者も変化する事になる。

■これに対し「国交省 営繕部 設備・環境課」にて、「建築設備計画基準・設計基準(茶本)」改訂の際、「車いすトイレ」に設置する便器高さに対し、レストルーム工業会に見解を求められた。

■しかしながら、客観的に判断するだけのデータが各社になく、明確な回答を出すことができなかった。

業界としての見解をまとめる必要がある

⇒ 結果、17年度の「建築設備計画基準・設計基準」改正では前回同様に、「車いす利用者の車いすから便器への移乗方法を考慮し、高座面大便器及び背もたれの設置を検討する」との記載にて進める事となった。

国交省より

今後の官公庁物件の指定に関わるため、次回見直し時(20年度)までには根拠に裏付けられた明確な見解の提示を求められた。
また、合わせて衛生器具のJIS(19年度改正予定)にも掲載するよう助言いただいた。

9

171023 ADフォーラム(レストルーム工業会 UD部会)

参考 :BF法ガイドライン(建築)改正のポイント

国土交通省HP 建築物におけるバリアフリーについて 2017年3月

② トイレのバリアフリー化の促進

○ 多くの国内外からの来訪者を受け入れるにあたって、高齢者、障害者等が円滑に利用できるトイレの整備が求められる。このため、トイレの機能分散を図るとともに、バリアフリー改修を促進し、より多くの施設におけるトイレのバリアフリー化を促進する。

個別機能の分散配置を促進

○ 多機能トイレへの利用者の集中を避けるため、個別機能の分散配置を促進

多機能トイレ

必要な設備等

- 車いす使用者 ... 回転スペース、大型ベッド等
- オストメイト ... 汚物流し等
- 乳幼児連れ ... 乳幼児用いす、おむつ交換台等

施設の用途や利用状況を勘案し、障害者等に必要各設備を個別機能トイレへ分散

設計上の工夫により対応

車いす使用者
用トイレ

回転スペース
大型ベッド等

+

オストメイト用
設備を有する
トイレ

乳幼児連れに
配慮した設備を
有するトイレ

○ 小規模施設や、面積・構造の制約が多い改修の場合には、利用者ニーズ等を考慮した上で、「多機能トイレ」と「簡易型機能トイレ」の組み合わせにより、可能な限り機能分散を図る

既存トイレのバリアフリー改修方法の充実

既存建築物におけるトイレのバリアフリー化が進むよう、便房の数や配置の工夫等、効果的な改修方法を提案

改修前

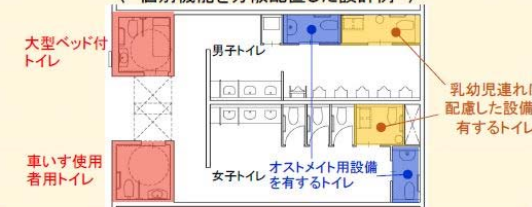
- 出入口の幅が狭いため、車いすで進入できない
- 便房内のスペースが狭く、内開き戸のため、車いすで進入できない

改修後

- 出入口幅、回転スペースを確保することにより、車いすで進入可能に
- 便房内においてスペースを設け、引き戸にすることにより、車いすで進入可能に



〈個別機能を分散配置した設計例〉



3

50名以上の車いす使用者検証実施

JSEIA

JAPAN SANITARY EQUIPMENT INDUSTRY ASSOCIATION

	N数	男/女		年齢				移乗動作			疾病					身長			検証順序	
		男性	女性	～39	40代	50代	60～	立位	座位	介助	脳性マヒ	脊損系	骨形成不全	その他		～155	155～170	170～	高⇒標	標⇒高
TOTO	15	12	3	3	2	3	6	9	5	1	2	8	1	6		3	6	5	0	15
LIXIL	15	7	8	3	3	5	4	4	10	1	4	8	0	5		7	7	1	7	7
工業会	27	9	18	10	9	5	3	10	11	6	10	10	2	5		17	6	4	19	8
計	57	28	29	16	14	13	13	23	26	8	16	22	3	16		27	19	10	26	30
		57			56			57			57					56			56	

【総計①：移乗方法別のクロス確認】

移乗	男女	人数	順序	移乗	年齢	人数	移乗	身長	人数	移乗	疾病	人数
立位	男	8	標⇒高	立位	40未満	9	立位	155未満	14	立位	脳性マヒ	7
	女	14	高⇒標		40代	4		155～169	5		脊損系	7
座位	男	16	標⇒高	座位	50代	5	座位	170～	4	座位	骨形成不全	2
	女	10	高⇒標		60以上	3					その他	7
介助	男	1	標⇒高	介助	40未満	4	介助	155未満	7	介助	脳性マヒ	4
	女		高⇒標		40代	8		155～169	14		脊損系	14
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	1
	女		高⇒標		60以上	8					その他	7
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高	計	40未満	3	計	155未満	6	計	脳性マヒ	6
	女		高⇒標		40代	3		155～169	0		脊損系	1
計	男	1	標⇒高	計	50代	8	計	170～	5	計	骨形成不全	0
	女		高⇒標		60以上	8					その他	0
計	男	1	標⇒高									

3. 今後の活動計画

高齢化・国際化に伴うUDに係る事業の推進

●業界横串のアクセシブルデザイン標準化推進活動

UDにかかわる国内・国際規格(JIS・ISO)について、原案作成検討委員会等へ協力し、工業会内、参画企業内に情報を展開し、意見の集約を行い、必要に応じ検討委員会等への提言。

2019年度以降、JIS 改定に向けた新たな依頼に応じ 調査、検証、JIS改正検討委員会活動

●法令改訂・ガイドライン改訂への提言活動

UDにかかわる国内法令等の改訂に対し情報収集を行い、レストルーム空間UD視点で工業会内、参画企業内に情報を展開し、意見の集約を行い、必要に応じ検討委員会等への提言。

「高齢者住宅ガイドライン」改正に向けた、提言活動

3. 今後の活動計画

高齢化・国際化に伴うUDに係る事業の推進

●住宅・パブリックトイレ空間の UD化に関する課題検討と提案活動

①住宅トイレに関するUD視点での新しい価値の検討

・UD視点での新しい価値につき、ホームページを活用した情報発信等の検討を行う。

②公共トイレの使い方啓発活動

・公共トイレにおいての多様な利用者の円滑な利用に配慮したユニバーサルなトイレ整備について検討し、UD市場の認知拡大をめざす。



<https://www.sanitary-net.com/>

以上